

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891300133
法人名	社会福祉法人 くりのみ会
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 くりのみ土居
所在地	愛媛県四国中央市土居町津根3008-1
自己評価作成日	平成24年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 10 月 30 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少人数で温かみのある家庭的な雰囲気の中で生活を共にしながら個別にケア(介護)を行なう。健康管理に十分注意して急変時や特変事は、すぐに協力医療機関と連携を図り、対応できる環境にある。また、施設内にあるリハビリ施設を利用して一人ひとりにあったリハビリを行い、心身の機能の低下を図る。
ユニット内でレクや季節にあった手芸・工作を行なうことで楽しみのある生活を送り、また、施設のユニット間の交流を図ることで、生活に張り合いを持たせるように取り組んでいます。
慰問や散歩、外出等で多くの方とふれあう機会を設ける。また、ゆったりとした時間を過ごせる環境を提供できるように取り組む。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設2年目で、地域密着型介護老人福祉施設の2階にある。赤星山を背にして瀬戸内海を見渡せる眺めの良い環境にある。医療面においては協力医療機関や法人内の看護師、同敷地内のリハビリ施設等の協力体制が整っており、利用者の健康管理には安心感がある。明るく日当たりのよい事業所は畳敷きで広々としたスペースがあり、ハード面は特に充実している。利用者が個々の生活歴を活かしながら、ゆったりと過ごせるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

事業所名 認知症対応型共同生活介護事業所

(ユニット名) くりのみ土居

記入者(管理者)

氏名 白川雄一

評価完了日 平成24年 10月 10日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 1. その日その時を穏やかに普通に楽しく生活できる。 2. 必要なときにその方にあったサポートができるケアを目指す。3. 地域での生活が送れるように地域との交流を図る。を理念に掲げています。</p> <p>(外部評価) 開設時の法人理念を元に、事業所独自の理念を全職員で話し合い作りあげた。個別ケアや地域の人にも開けた事業所を目指し、一人ひとりの地域生活支援を行っていかうとしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 四季折々に、春は施設の近くにある神社に行きお花見を行い、夏は納涼祭を施設全体で取り組み、ご家族の方や地域の方をご案内して、できる限り参加して頂いています。秋は沢山の太鼓台に立ち寄ってもらっています。他に積極的に慰問を受け入れたり、外出を行い交流をしいています。</p> <p>(外部評価) 法人をあげて地域との関わりを密にしており、地域行事へ参加のほか、近隣の幼稚園、小学校等の交流も定期的にある。また法人行事には地域住民の参加もあり、日常的な交流がある。法人内各事業所と協力しながら地域の一員として活動している。敷地内にある地域交流スタジオは地域に開放され、交流の場として使用されている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議の場で認知症について話をしたり、理解を深めていただけるような場を設けています。また、地域の方に、四国中央市が主催の徘徊模擬訓練の認知症役で参加を行う予定です。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 今年度からは、運営推進会議に利用者様も参加して、 忌憚のなく意見を言ってもらっています。問題点や 指摘点などがあれば職員間で話し合い、それに対して の改善点がみられた場合も運営推進会議で報告するよ うにしています。	
			(外部評価) 運営推進会議は、利用者や家族、地域住民等広く参加 を呼びかけ協力して開催している。日常の活動内+D40 容の報告をはじめ、地域の行事などの情報交換や日常 の不安となっていることを話し合う場として有効に活 用されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 月に1回、ふれあい相談員さんが来られ、情報交換を 行っている。その都度、気になったことはその場で話 し合っている。	
			(外部評価) 日常的に市町村との関わりはスムーズに行われている。 地域包括支援センター職員には運営推進会議への 出席を通じて日常の活動内容を詳細に伝えており、必 要なアドバイスを受ける等相互に情報を共有し良好な 関係が構築されている。また月1回介護相談員の訪問 があり、利用者と顔なじみの関係ができています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 施設設備の離床センサーを活用して、身体拘束を行わ ないように努めている。必要に迫られたときは、ス タッフ間で直ぐに話し合う場を設けています。また、 同施設職員が研修に参加して、自施設で勉強会を開催 し、それに参加して知識を共有し活用できるように努 めています。	
			(外部評価) 法人内各事業所での勉強会に参加し、身体拘束をしな いケアの正しい理解ができるように努めている。玄関 は日中開放され利用者は自由に出入りが可能である。 法人内各事業所の協力を得て、職員間で互いに声をか け合って見守っている。夜間頻回に離床し転倒リスク が高い利用者には、安全を優先し離床センサーを使用 する事もあり、利用者と家族等に説明され承諾を得て いる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会を開催し、高齢者虐待防止法などの講習を行うことで意識を深め、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者が研修に参加して、勉強会を開催して、他の職員と知識を共有し活用できるように努めています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時の説明をする時にパンフレットや書類で詳しく説明をしています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の来室時などに声掛けを行い口頭で伺えるように努めている。出た意見に関しては、職員間で話し合う場を設け、積極的に改善できるように努めています。	
			(外部評価) 日頃の家族等の意見や要望は面会時や日常報告の電話連絡時に直接聞いたり、運営推進会議の機会を利用し気軽に話してもらっている。意見箱の設置のほか事業所内外の苦情受付窓口については、書面をもって利用者及び家族等には説明がされている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月ミーティングの際に管理者と職員間で話し合う場を設けています。また、お互いに普段から意見を言いやすい雰囲気作りに努めています。 (外部評価) 管理者と職員は日頃の介護現場でその都度お互いの気づきを話し合っている。職員と管理者、法人施設長との三者面談の機会が年に2回設けられており、法人代表者に直接意見や提案することが可能である。法人内事業所への異動希望も可能である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 賞与支給時、職員間の良く努力をしている所や実績などについて本人と話す機会を持つようにしています。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 不定期で同グループ職員と合同の勉強会を行ってる。また、それ以外にもなるべく研修の場を設けるようにしています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修などで知り合った方たちと定期的に連絡を取り合ってい交流を図っています。しかし、同業者との交流を図れていません。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前にお話を十分に伺い、なるべく入居者に関しての不安を取り除くようにしています。また、入居後も不安や要望を会話や行動の中から様子を伺い、注意しながらケアを行っています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に家族が不安に思っている事や家族の希望などを必ず聞くようにしています。また、面会に来られた際などにも積極的に、ご家族に声をかけ、話を聞きだせるように努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) パンフレット等で説明をしたり、介護保険の内容をわかりやすく説明しています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 寝具の交換、居室の掃除、寝具の運搬、洗濯や洗濯干し、ゴミ出し等各入居者ができることは、負担がないように自分で行っていただき、必要に応じて見守りやその入居者に合った手伝いを行っています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 何かあれば連絡をとったり、来室していただけるようにし、イベント行事には、参加して頂けるように連絡をしています。意見や気づきを職員と家族がお互いに言い合えるような関係作りが出来るように日々努めています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 同法人のデイサービスやショートステイを利用して、面会者がいる場合は、職員間で連絡を取り合い面会などの場を設けています。施設外で会いたい場合には、家族と相談をしてなるべく希望に添えるようにしています。	
			(外部評価) 地域住民が気軽に事業所を訪れることのできる環境が整備されており、利用者がこれまで在宅生活で築いた大切な関係を断ち切ることなく継続できるように支援している。外出時に自宅に立ち寄ったり、家族等から情報を得て事業所としてできることを工夫しながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 常に職員間で入居者同士の関係について気になることを話す機会を設け、申し送りを通じて職員全員に直ぐに伝達できるように、ケアに繋がるようにしています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) その後もその方の状態を気にしながら、不定期ではあるが、こちらから声掛けを行っています。また、いつでも相談に乗れるよう日頃から信頼関係の構築に努めています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 計画作成担当を始め、各職員が希望や意見を聴き、カンファレンスを始め、日常の申し送りの際などで報告し、職員全員で把握しています。	
			(外部評価) 利用者や家族等から情報を収集し、思いや暮らし方の希望など個別表にまとめている。日常知り得た利用者の情報は申し送りやカンファレンスを利用し共有している。管理者は個々に応じた介護手順等を詳細に指導しているが、職員の対応にばらつきがある。	利用者の思いや意向は刻々と変わりやすく、その都度情報の共有方法や記録方法について全職員で検討し、統一したケアに取り組んでいくことが望ましい。利用者の思いや意向を丁寧に把握することで、馴染みの人や場との関係継続や外出の支援等につなげてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前・後に本人やご家族、在宅担当ケアマネ等から情報を収集し、各個別表に記録し、職員間で情報を共有できるようにしています。また、入居後も職員との会話等の中でわかったことは、追記し、職員間で伝達しています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別記録表があり、一人一人の1日の状態が把握できるようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にカンファレンスを行っています。職員全員で利用者の性格や行動、思いなどを把握して、介護計画を作成しています。また、家族参加が難しい時は、カンファレンス等が出た意見を家族が来室した時に話し合い、意見交換を行っています。	
			(外部評価) 日頃把握した利用者の思いや家族の意見を取り入れ、毎週のミーティングやカンファレンスを利用して職員で話し合い、管理者がまとめ介護計画を作成している。ケアチェック表を用いてモニタリングを行っている。	全職員が介護計画作成に関われるようになっているが、現在のモニタリングからさらにもう一步向上するように、目標に沿った実施記録の方法を工夫することに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録に日々の状況を細かく記載するように心がけています。気になることは何でも記載して、そのことについても検討する機会を設けるようにしています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 法人所有の設備（リハビリ施設、交流センター、入浴装置、福祉車両等）をその時の利用者の状況や要望に合わせて、他部門と連携しながら柔軟に対応しています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生委員やボランティア、消防機関等と連携を図り、問題点や要望があれば気軽に協力・依頼ができるような関係作りを構築しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 母体の栗整形外科病院と連携を図りながら対応してい ます。本人や家族の希望も聞き、かかりつけ医が他に ある場合も連絡を取り、受診が出来るように支援して います。	
			(外部評価) 利用者の通い慣れた馴染みの医療機関への受診は家族 の協力を得ながら支援しており、受診時の情報は共有 されている。月2回、協力医療機関の訪問診療がある ほか、緊急時には法人内看護師の協力体制があり心強 く安心できる。服薬はチェック表を用いて間違いがな いように正しく管理されており、日々安全に生活でき るよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 施設の看護師と毎日連絡を取り合って情報交換をして います。また、医療連携の看護師も入居者の健康把 握・管理を行っています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 協力医療機関との連携は図れています。他医療機関 に、掛かっている場合でも情報交換や相談をするよ うにして、連携が図れるように努めています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りの指針を作成し、家族に説明・同意を得て、家 族・協力医療機関、職員が協力できる体制を取って います。	
			(外部評価) 重度化した場合の対応に関する指針を整備している。 利用者や家族等に説明をして共有されている。看取り の経験はないが、経験のある法人他事業所や協力医療 機関、法人内看護師等の協力体制があり、利用者や家 族等の希望に沿った、重度化や終末期の支援ができ るよう体制が整えられている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生に時に備えての勉強会を行っています。今後も最低年に一度は開催を行う予定です。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎年、年2回防火防災避難訓練を予定し実施しています。施設内の職員と連携を図れるようにして、災害時対応できるように努めています。	
			(外部評価) 法人内に災害対策に関するマニュアルや緊急連絡網が整備されており、年2回の防災訓練を実施し手順を確認している。緊急時には法人内各事業所と連携することが可能である。運営推進会議でも災害対策について話し合う機会を設けている。今後、地域との協力体制について検討していくことになっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日頃から、一人ひとりのプライバシーを損ねないようなケアが出来るように心がけ、スタッフ間で入居者に対する言動など普段から個別に話し合えるようにしています。	
			(外部評価) 利用者の誇りやプライバシーに配慮した職員の声かけが自然である。申し送り等は居室番号を用いて利用者に配慮している。各居室にはトイレがありリラックスして生活することができ、ドアが開放したままにならないように注意されている。個人情報が含まれる書類はカギのかかる所に収められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃から本人の希望や思いを聞き出せるような関係を築けるように心がけており、一人ひとりと話を伺えるよう努めています。また、本人が理解し、納得出来るように何事も良く説明をするようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の毎日の健康状態をよく観察し、把握することで、その人のペースを崩すことなく生活していただけるよう努めています。希望があれば、入浴や散歩など柔軟に対応するようにしています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 更衣をする際は、自分で服を選べるように声掛けや助言を行っています。また、ネイルアートも行っています。外出時には、女性は化粧を行っています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節にあった食事が提供できるようにしています。その都度、味や固さ、量なども感想として聞けるようにしています。調理などはできないが、食事の片付けや配膳はお手伝いして下さいます。 (外部評価) 献立は法人内の栄養士が立てて一括で調理されている。炊飯や盛り付け、配膳は事業所で行われ、行事食やおやつ作りなど利用者は楽しく手伝っている。職員も一緒に食卓を囲んで、和やかな雰囲気の中で食事の時間を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事中は職員が見守り毎食後に食事量チェックしています。水分は、毎食事の時、入浴後、レク、リハ後に身体を動かす前後で水分補給促を実施しています。夜間は、配茶やキッチンにお茶を準備していつでも飲むことができるように準備をしています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 職員が毎食後に口腔ケアの声掛けを行っています。自分でできない方や、磨き残しがある方には、特に就寝前に口腔ケアを行い口腔内を確認するようにしています。また、協力歯科医師の往診にて連携を図っています。また、歯科衛生士が、職員にも口腔ケアの指導をして下さり、口腔内の清潔保持に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 定期的にトイレ誘導を行っていますが、排泄チェック表を使用して、その方の状態に合わせてその都度のトイレ誘導も行っています。職員間でカンファレンスを行い、排泄面での自立に向けて話し合い、布パンツへ移行することができました。	
			(外部評価) 利用者の排泄のパターンや習慣を把握し、排泄チェック表を用いて確認しながら排泄介助を行っている。個々の状態に応じた下着やパット等適切な選択に努めて、おむつの使用を減らす努力をされており、紙パンツから布の下着へ移行できるよう自立に向けた排泄介助に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の場合は、なるべく自力排便出来るように運動を促したり、水分補給を促すなどのケアを行っています。しかし、どうしても時は、看護師や医師に相談し便秘薬を服用するなどの対応を行っています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個別入浴でゆっくりと入浴を行っています。基本的には、週3日の入浴を実施していますが、本人の希望によりいつでも入浴ができるように準備をしています。利用者の状態を考慮しながら、必要に応じて併設施設内の特浴を利用することもできます。	
			(外部評価) 週3回の入浴を基本としているが利用者の状態を把握したうえで夕方入浴を可能としたり、個々の習慣を大切に全ての利用者が気持ち良く入浴を楽しむことができるよう支援している。希望に合わせて同性介助も行っている。また必要に応じて併設施設の特浴を利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとり個々人の睡眠ペースを尊重するようにしています。眠れないと居室より出て来られる方や不安がある方には職員がしばらく側についてお話をしたり安心していただけるような対応を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの服用している薬と効果・副作用がわかる一覧表を置いてあり、現在、服用中の薬や変更になった薬などを直ぐに情報が共有できるようにしています。新しく処方された薬に関しては、特に服用後の状態観察を徹底しています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) レクリエーション・手芸・陶芸・大正琴やキーボードに合わせて歌を唄ったりして、自由に参加を呼びかけるようにしています。また、これまでの趣味や生活ペースを崩さず続けていけるよう支援しています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出の希望があれば家族の相談の元、体調の許す限り自由に出かけていただいています。なるべく、家族の方に協力していただく様にしてはいますが、職員が同行したり、外出先の方に協力していただくこともあります。 (外部評価) 日常的に、広大な敷地内で気軽に外気浴を楽しむことができ、家族との外出や買い物など利用者の希望に沿えるように支援している。また、花見や紅葉狩り等季節を楽しむ行事も工夫して行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には、自由に所持していただいています。認知症が進んでいる方や置き忘れ、物盗られ妄想などがある方に関しては少額を所持していただいています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ホーム内の電話を自由に使ってもらい電話をしていただいています。手紙を投函する場合は、家族に確認して頂いて投函しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ホームの内部や居室は、すべて畳み敷きで家庭環境に近い雰囲気になっています。大きな窓を使用して、自然の光を取り入れています。掲示板では、利用者と一緒に作った季節にあった飾り付けを行っています。</p> <p>(外部評価) 自然光が各所に行き届き明るく広々とした共用空間である。畳風の床材やコタツが設置され、利用者は自宅の雰囲気でお気に入りの場所で過ごすことができる。自然の景色を一望できるラウンジでは、気の合った利用者同士がゆっくりと時間を楽しんでいる。陶芸作品や壁画等、利用者の力作も飾られている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ラウンジにテーブルと椅子を設置して、気のあった方と座って外を眺めながらお話ができる場を作っています。また、リビングは食堂とくつろぎスペースを設けて個別で話を出来る場を設けています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室内には、本人の使い慣れた物や思い出の品、家族の写真などを配置して、本人にとって暮らしやすい環境になるように工夫しています。</p> <p>(外部評価) 各居室の広々としたスペースは清潔に保たれており、使い慣れた好みものを持ち込んで、利用者や訪れた家族等が居心地よく過ごすことができるように配慮されている。掃除や洗濯等過去の生活習慣を活かし、必要な方には職員が手伝って支援をしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人ひとりの出来ること出来ないことを職員が把握して、その能力に応じて作業を職員と一緒にしています。職員もその方にとって出来るかもしれない事を実際に挑戦したり検討する場を設け、意見を出し合うようにしています。</p>	